

【 投薬 】

816 アコチアミド塩酸塩水和物錠の算定について②

《令和8年4月30日》

○ 取扱い

- ① 次の傷病名が併存する場合の機能性ディスぺプシアに対するプロトンポンプ・インヒビター（タケプロンカプセル等）とアコチアミド塩酸塩水和物錠（アコファイド錠）の併用投与は、原則として認められる。
 - (1) 胃十二指腸潰瘍癒痕
 - (2) 逆流性食道炎
- ② 次の傷病名が併存する場合の機能性ディスぺプシアに対するH₂ブロッカーとアコチアミド塩酸塩水和物錠（アコファイド錠）の併用投与は、原則として認められる。
 - (1) 胃十二指腸潰瘍癒痕
 - (2) 逆流性食道炎
 - (3) 慢性胃炎

○ 取扱いを作成した根拠等

アコチアミド塩酸塩水和物錠（アコファイド錠）の添付文書の効能・効果は「機能性ディスぺプシアにおける食後膨満感、上腹部膨満感、早期満腹感」である。

機能性ディスぺプシア（以下、「FD」という。）は「症状の原因となる器質的、全身性、代謝性疾患がないにもかかわらず、慢性的に心窩部痛や胃もたれなどの心窩部を中心とする腹部症状を呈する疾患」*と定義され、プロトンポンプ・インヒビターやH₂ブロッカーもFDと同様の症状改善に有効とされている。

胃十二指腸潰瘍癒痕は、潰瘍が治癒し癒痕化した状態であるが、慢性的に胃もたれや腹部膨満などの腹部症状を来すことがあり、当該医薬品が併用投与される。

逆流性食道炎は、胃酸など胃内容物の食道への逆流による症状（胸やけ、呑酸）を呈し、FDとは別疾患とされたが、関連学会においてFDとの併存及び合併がよくみられると報告されている。したがって、プロトンポンプ・インヒビターやH₂ブロッカーと当該医薬品の併用投与は有用であると考えられる。

慢性胃炎は「慢性的な胃粘膜の組織学的炎症」*との定義により、FDとは異なる病態とされるが、FDと同様の症状を呈すること、また一般臨床で胃粘膜病変を呈しないような慢性胃炎にFDが含まれていることから、H₂ブロッカーが併用投与される。

以上のことから、①傷病名(1)(2)が併存する場合のFDに対するプロトンポンプ・インヒビター（タケプロンカプセル等）とFD治療剤・アコチアミド塩酸塩水和物錠（アコファイド錠）の併用投与は、原則として認められる、②傷病名(1)から(3)が併存する場合のFDに対するH₂ブロッカーとFD治療剤・アコチアミド塩酸塩水和物錠（アコファイド錠）の併用投与は、原則として認められると判断した。

（※） 機能性消化管疾患診療ガイドライン 2021－機能性ディスペプシア（FD）
改訂第2版（日本消化器病学会）